

## < 茅ヶ崎方式学習システムの使い方 >

茅ヶ崎方式の学習目標は、英語を話す外国人と英語で対話をする事です。対話は、相手の言うことを聴き取れなくては成り立ちませんから、まず LISTENING の力を身につけることに力を注ぎます。そのために、相手の言うことを聴き取れない原因を見極め、段階的に克服していきます。聴き取れない原因は、次の5つの力が不足していることです。

### 1. 語彙 2. 統語法 3. スピードへの対応力 4. 背景知識 5. 類推力

#### 1. 語彙

茅ヶ崎方式の用語集である「国際英語基本 4,000 語」は、外国人との対話を想定して選ばれており、例えば、オバマ大統領の就任演説に用いられた語の 98% 以上をカバーしています。**このシステムの8冊の教本類は、固有名詞などを除き、全て、この 4,000 語で書かれています。**4,000 語を序文の表のように配分し、易しいものから順に何回も使うことによって無理なく使用語化できるようにしてあります。

#### 2. 統語法

統語法 (syntax) というのは、語の順序や文の構成に関する規則ですが、日本語と英語では大きく異なります。茅ヶ崎方式では、BOOK-0 から BOOK-5 に至る全教本で、用例を学習しながら統語法を身につけるようにしてあります。BOOK-0 では「英語のしくみ」というパートを設けて統語法の基本を配置、BOOK-1 では統語法の核となる部分を中心に各 UNIT を構成、BOOK-2 では NOTES を設けて重要な点を復習、BOOK-3, 4 では巻末に文法事項・慣用語法リストを付して重要な構文を含む用例を分類して学習、そして BOOK-5 では preparatory exercise と「ひとくちメモ」で総合復習をします。

#### 3. スピードへの対応力

NHK の全世界向け英語放送 (listener の多くは non-native) のアナウンサーは、1 分間に 150 ~ 180 語程度のスピードでニュースを読みますが、LISTENING に不慣れな日本人が聴くと、とてつもなく速く聞こえるようです。しかし、語彙と統語法がある程度身につく、英語の音韻になれてくると、スピードは気にならなくなります。付属の CD で繰り返し練習してください。

#### 4. 背景知識

仕事についての話は十分通ずるのに、他の話題になるとダメなのは、話の内容についての知識とそれを表現する語彙の不足が原因です。茅ヶ崎方式の教材はニュース（或いは歴史的事実）ですから、いろいろな内容に対応する知識を蓄積できます。

\* 最新のニュースについては協力校用週刊教材を利用してください。

#### 5. 類推力

英語の native speaker は日常 2 万語程度の語彙を使用しているようですから、4000 語で全てをカバーすることはできません。しかし、対話の中で数%の知らない言葉が出てきても、類推によって十分カバーできます。学習時にわからない単語があっても直ぐに用語集を見るのではなく、全体からその語の意味を類推する練習をしておけば、類推力は高まります。また、LISTENING COMPREHENSION TEST を聴く際も、1 回目から、知っている単語や背景知識を総動員して内容を類推してください。

茅ヶ崎方式のシステムは、**それぞれの英語力に合わせて、どの段階からでも利用できます**。自分の英語力を各教本の UNIT-1 でチェックして、ひとつ下の教本から始めるとよいでしょう。

十分に LISTENING の力をつけながら語彙や統語法、背景知識などを INPUT した後、BOOK-5 では蓄積した力を OUTPUT つまり書く力、話す力へ展開していきます。

\* 各教本の使い方は、それぞれの教本の巻末に説明してあります。

## この教本 (BOOK 2) の使い方

### ① KEY WORDS 一覧表

各項目の最初にその項目で学習する key words の一覧表がある。一覧表の中でよくわからない語は『国際英語基本 4,000 語』で意味を確認しておく。BOOK 2 には学校では習わなかった語も数多く出てくるので学習を容易にするため 1,000 語の key words のうち約 4 分の 1 は BOOK 1 と同じ語にしてある (\*印の語)。

### ② EXERCISE (EX) 用例

1. 20 の用例を、key words(ブルーの文字)と BOOK 1 で既習の語をたよりに自分で日本語にする。知らない語があれば WORD LIST や『国際英語基本 4,000 語』で調べる。知らない語は聴きとれないのである。
2. 用例の日本語訳文で、key words(ブルーの文字)に注意しながら英文の内容を確認する。
3. NOTES に語法、背景知識についての解説がある。背景知識は聴き取りを容易にするとともに、内容ある対話の基盤となる。なお背景知識の解説に用いた資料の多くは 1996 ~ 1998 のものである。
4. 20 の用例すべてについて 1. 2. 3. の作業を終えたら BOOK-2 CD (or カセット) を繰り返し聴き、音声だけで内容を理解できるようにする。

### ③ WORD TEST (WT)

WORD TEST の 20 語は、用例中の key words と、このあと LISTENING COMPREHENSION TEST (LCT) に使用される key words である。BOOK 2 CD (or カセット) の音声 WT を聴いて、用例の key words が確実に catch できるようになっているかどうかをチェックするとともに、知らない語は WORD LIST で調べて、LCT に備える。

### ④ LISTENING COMPREHENSION TEST (LCT)

1. LCT は ① ② ③ の学習効果をチェックするためのものである。BOOK 2 CD(or カセット)の LCT を 3 回聴いたあと、英文、日本語訳文で理解度をチェックする。音声に馴れてきたら natural speed 1 回で 80% 聴き取れるよう努力する。
2. ラジオ・ニュース・スタイルで書かれた LCT は音読の text として最適である。natural speed の CD(or カセット)を手本に何回も音読し、発音や intonation,

rhythm, phrasing を身につける。音読の練習は speaking の基盤となる。

⑤ **QUESTIONS (Q)**

1. QUESTIONS の4題は LCT の理解度をチェックするためのものである。答は LCT の中にある。BOOK-2 CD (or カセット) の Q を聴き、わからなければ LCT を聴き直して答をみつける。そのあと解答をみる。
2. 質問することは speaking の第1歩である。LISTENING の力がつき、質問が口をついて出るようになれば英語による対話へ道がひらける。

⑥ ①～⑤の学習によって完全に身についた key words を「key words 一覧表」から消していく。残った語を list up する。WORD LIST 右欄の( )内の数字は、その語が使用されている UNIT と用例の番号を示す。list up した語について『国際英語基本 4,000 語』を利用して、それら語が用いられている他の用例を学習すれば、context の中で、それらの語をより早く、確実に使用語 (production word) とすることができる。

## 著 者

### 松山 薫 Shigeru Matsuyama

略歴：1929年東京生まれ、東京高等師範学校英語科卒、新潟県立栃尾高校、新潟南高校、静岡県立浜松北高校教諭を経て、NHK 入局国際局記者、1981年茅ヶ崎方式英語会創設初代表、(有)茅ヶ崎出版、(有)茅ヶ崎方式英語会の設立を企画。

著書：茅ヶ崎方式時事英語教本「準備編」「基礎編」「応用編」「対話編」、茅ヶ崎方式英語教本「BOOK 1」「BOOK 2」「BOOK 3」「BOOK 4」、国際英語基本4000語、季刊時事英語教本「1号～18号」、茅ヶ崎方式英語教本バイマンスリー「1号～18号」

## 共著者

### 越村 美智子 Michiko Koshimura

茅ヶ崎方式英語会本校・鎌倉ケーズ英語会講師、教本改訂委員会サブエディター  
世界のなかの日本が浮かび出てきます。英語も内容も丸ごと活用してください。

## 用例作成協力

### 久保田 堯子 Takako Kubota

茅ヶ崎方式英語会本校・鎌倉ケーズ英語会講師、教本改訂委員  
英語を学びながら、世界情勢から経済まで幅広い知識を習得できます。

### 小室 澄子 Sumiko Komuro

茅ヶ崎方式英語会本校・鎌倉ケーズ英語会講師、教本改訂委員  
茅ヶ崎発の英語が全国の皆様に愛されることを願っています。

### 鈴木 恵 Megumi Suzuki

茅ヶ崎方式英語会本校・鎌倉ケーズ英語会講師、教本改訂委員  
自信を持って使える英語会のボキャブラリー、これを使えば世界中どこでも O.K.

茅ヶ崎方式  
国際英語語教本 BOOK 2 (中級)

2015 年 12 月 1 日 新装第 1 版第 1 刷発行

---

著 者 松山 薫  
共著者 越村 美智子  
発行者 大美賀 廣芳  
発行所 有限会社 茅ヶ崎方式英語会  
埼玉県行田市北河原 647

© 2015 Shigeru Matsuyama Printed in Japan